

の實行を希望して止まない。  
五封建的氣風の残存すること

我國民には忌むべき屈從性がある。これは封建時代に大名に屈從した性質が残存してゐるからであつて、資本家や一部の官吏には封建時代の大名の如く威張るのを當然と心得てゐる手合もある。日本が封建時代を去つてから既に五十年、文物非常の進歩をなしたるに係らず今猶非人道的なる封建的氣風の残存し合理的なる労働運動を妨ぐるとは残念至極のことである。吾人は一日も早く此社會的病根を断たねばならない。

以上の如く日本労働者の前には種々の難關が横つてゐるのである。然しながら労働運動は天地に恥ぢざる正義の要求である。譬へ前途に如何なる妨げありとも吾人は勇敢に進み進んで最後の目標に達せねばならぬのである。

曩に一言せる如く坑夫階級は都市工業労働者と異なる種々の特質を持つてゐる。

都市労働者の運動は彼等の意の如くせしめよ。我が坑夫諸君は如何なる運動方法に依つて進むべきであらうか。

## 第二章 日本坑夫の特質

### 一 先づ己れを知れ

西洋の諺に先づ己れを知れといふ言葉がある。それは事を成さんと欲せば充分に自己の性質や立場を了解しておいて取りかかれといふことである。坑夫の労働運動は先づ己れを充分知つてから始めねばならぬ。

坑夫は都市工業労働者とは種々の相違がある。労働者は労働者階級として全て一體であるから、最後には大同團結をなし協同的動作をせねばならぬのであるが最初から性質、地位、精神、歴史の違つたものが充分の用意無しに一體となつて運動すれば必ず失敗することと思はれる。